

- ・清の没(昭和三十一年)後、松瀬は母清の生前と同じように太子堂の祀りを続けることに使命感を持ち、従姉妹の阿部要、千里らと、年々少なくなっていく大工町関係者とともに祭りの集いを続けた。
- ・昭和四十五年五月、太子堂祭りの準備を進める中で、松瀬は病に倒れ、亡くなった。その後、小林家に居住し、家屋敷の管理をしていた松瀬の三男恒夫は、祭りを主催することはなかったが、五月二十二日には家族にお参りをさせ、一年に一度は大工に太子堂の建物の危険度を点検させ、手入れをしていた。
- ・昭和五十二年、恒夫は小林の家屋敷の管理を離れた。

太子堂が鶴岡邸に移築された経緯

- ・小林慎吉邸は昭和五十二年恒夫が離れてからは、阿部要とその養子邦司夫婦、阿部千里の娘夫婦らが管理した。
- ・慎吉の長女は養子徳太郎を迎えて小林家を継いだが高城県の日立に住み、鶴岡は疎遠であった。没後二男富士也は鶴岡の家屋敷を相続したが、東京住まいの人間で、ここを更地にして売却することを考えていた。
- ・平成六年、大工町太子堂が鶴岡市の文化財指定の候補となり、視察調査に来た。視察員の中に鎌田氏がいたものと思われる。
(この話は鳥居町の日向家武家屋敷が指定を受けた年のことであり、太子堂は来年以降にということになったと知らせがあった。)